

6. ニホンナシの改良むかで整枝に適した1本主枝大苗の育成			
[要約] プランターを利用した1年間の中間育苗により、'幸水'、'新高'は3m以上、'愛宕'は4m以上の1本主枝大苗を育成できる。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

従来の平棚を利用した整枝法では成園化に6～7年を要する。成園に要する年数を短縮するためには、予め育成した大苗をほ場に定植して樹冠拡大を早めることが有効と考えられる。そこで、'幸水'、'新高'、'愛宕'における1本主枝大苗の育成技術を開発する。

[成果の概要・特徴]

- (1) 培土の種類について'新高'で検討したところ、UCソイルミックス佐々木処方を用いると新梢伸長が最も優れた(表1)。
- (2) 鉢の種類と培土の量について'幸水'で検討したところ、プランターで7～13Lであれば新梢伸長が優れた(データ省略)。
- (3) 鉢に植え付ける際の苗木のせん定程度について'新高'と'愛宕'で検討したところ、先端から3割程度のせん定で最も長い大苗が得られた(表2)。
- (4) 鉢に植え付ける際の摘芽処理について'幸水'、'新高'、'愛宕'で検討したところ、頂芽以外の芽を予め摘芽すると新梢伸長が優れた(データ省略)。
- (5) 年間の窒素施用量について'愛宕'で検討したところ、1樹当たり窒素15g程度で新梢伸長が優れた(データ省略)。
- (6) 育苗期間の土壤水分張力について'幸水'で検討したところ、pF1.5～1.8で新梢伸長が優れた(データ省略)。
- (7) 上記の結果を基にした大苗育成技術により、1年間で'幸水'、'新高'は3m以上、'愛宕'は4m以上の1本主枝大苗を育成することができた(表3)。

以上の結果から、プランターを利用した1年間の中間育苗により、'幸水'、'新高'は3m以上、'愛宕'は4m以上の1本主枝大苗を育成できる。

[成果の活用面・留意点]

- (1) 1本主枝大苗をほ場に斜めに定植すると、短期間で改良むかで整枝が完成し、早期成園化が図られる。
- (2) 化成肥料を使用する場合は、1回の施用量を窒素5g以内として3回に分施する。
- (3) 生育に応じて新梢誘引を行い、高所での作業に注意する。

[具体的データ]

表1 培土の種類が一本主枝大苗の伸長に及ぼす影響 (1999、新高)

培土 ^{z)}	栽植前苗長(cm)		新梢長 (cm)	最終苗長 (cm)
	せん定前	せん定後		
U C ^{y)} 100%	237	165	216	381
U C 80% + たい肥 ^{x)} 20%	200	142	168	310
U C 50% + たい肥 50%	220	155	165	320
たい肥 100%	180	128	47	175
U C 土壌 ^{w)}	192	135	179	314

z) いずれの区も縦18cm×横58cm×高さ14cmのプラスチックコンテを使用し、培土の量は13L

y) U Cソイルミックス佐々木処方

x) もみから牛糞たい肥

w) U Cソイルミックス佐々木処方の川砂の代わりに第三期粘土質土壌を混用

表2 育苗時のせん定程度が一本主枝大苗の伸長に及ぼす影響 (1999)

せん定程度 ^{z)}	品種	栽植前苗長(cm)		新梢長 (cm)	最終苗長 (cm)
		せん定前	せん定後		
0%	新高	158	156	199	355
30%	新高	237	165	216	381
50%	新高	216	108	250	358
75%	新高	215	54	281	335
0%	愛宕	144	143	267	410
30%	愛宕	153	108	341	449
50%	愛宕	155	78	334	412
75%	愛宕	184	46	374	420

z) 苗木先端からのせん除率

表3 育成された1本主枝大苗の長さ^{a)}

品種	年次 (年)	栽植前苗長(cm)		新梢長 (cm)	最終苗長 (cm)
		せん定前	せん定後		
幸水	1999	190	133	173	305
幸水	2000	220	148	193	340
新高	1999	237	165	216	381
新高	2000	168	112	212	323
愛宕	1999	160	113	341	449
愛宕	2000	195	125	360	485

a) 表4の大苗育成方法に準じた1年間の中間育苗による

表4 1本主枝大苗の育成方法

項目	基準
鉢の種類	縦18cm、横58cm、高さ14cmのプラスチック製コンテナ(通称：プランター)
培土の種類と量	U Cソイルミックス佐々木処方7~13L (川砂50%、ピートモス30%、パーライト20%) ※その他、川砂50リットルに対して以下の微量元素を加用する。 過リン酸石灰260g、苦土石灰400g、炭酸石灰140g、硫酸銅8.5g、硫酸亜鉛3.5g、 硫酸マンガン3.6g、硫酸第1鉄4.8g、ホウ酸0.076g、モリブデン酸アンモン0.026g
肥料	1樹当たり年間窒素15g
せん定	苗木先端の3割程度をせん定し、先端の1芽以外を全て摘芽
かん水	pF 1.5~1.8に保つようにかん水

[その他]

試験研究課題・事業名：低樹高整枝を基幹とした果樹園管理の平易・軽労化と早期成園化技術の開発

予算区分：新技術地域実用化(国補)

研究期間：1999~2002年度

関連情報等：平成14年度主要成果：ニホンナシ‘幸水’‘新高’‘愛宕’の改良むかで整枝による早期成園化